

目先の困難にひるまずにチャレンジしてほしい。挑戦を許す環境がいつでもあるとは限らないから。



(プロフィール)

尾上由香里 氏

所 属 防衛医科大学校病院 ICU

勤 続 8年目

卒業校 狭山准看護学校 *働きながら通学

所沢看護専門学校 卒業

人間総合科学大学(通信)学士

職業選択において看護師という職業は念頭になかった、しかし“看護”と出会い、“看護”に助けられてきたという尾上さんのこれまでとこれからについて伺いました。

—看護師を志したきっかけはありますか

学生時代に、看護師になろうと考えたことはありませんでした。20代の初めにシングルマザーとなり、周囲の支えを受けながら育児をしていました。落ち込む思いなどもあり、やりたいことを見つけることができませんでした。

そんな時、出産のときからお世話になっていた助産師さんが准看護師へのチャレンジを勧めてくれました。

始めは外に出るリハビリのような思いで学校に通っていました。

—准看護学校時代はどのように過ごしましたか

朝 7 時頃に働きに出て、仕事の合間に学校に行き、また職場に戻り、帰宅後に勉強していました。育児と同時並行だったので大変でしたが、今となっては、苦勞というよりも外に出ることで様々な年代の方のそれぞれの価値観に触れ、友人もできて新鮮で楽しい日々でした。

—准看護師の資格を取得した後に進学を選んだ理由はありますか

出産前に社会人経験があったので、「学ぶこと」「資格を取得していること」それらのアドバンテージを体感していました。また、働きながら学校に通っていたので医療現場の実際を見ていたことも影響していたように思います。准看護師として働く方が看護師との違いにジレンマを抱えていることも見聞きしていましたし、その当時の自分のアセスメント力にも不安がありました。

何より、いつでも勉強をすることが可能な環境が整っているとは限らないと考えたためです。シングルとして子供を育てていたこともあり、勉強するにも周囲の支えが必要でした。私の場合は両親、特に母親に助けられました。

支える側にも時間は流れ、都合や事情は変わります。一度准看護師として働き始めてしまえば、5年後に看護師の資格取得をしようと考えたとしても、改めて今と同じ条件で勉強に時間を費やすことができるか—それは断言できない。ならば、今、このままチャレンジし続けようと思いました。

—進学してからの生活はいかがでしたか

自宅と学校の距離、実習との兼ね合いなどがあり毎日働きながら通うことは難しい状態でした。

そのため、主に長期休暇中だけ働いていました。平時は通学与育児と勉強と、という生活だったため准看

護学校時代よりは時間にゆとりがあったように思います。当時働いていた病院では、周囲の先輩方から、この先の看護師としての働き方について示唆をいただくなど、大変お世話になったことを記憶しています。

一看護師資格を取得され、防衛医科大学校病院に入職されました

看護師一年目となった時、子どもも小学校一年生になりました。勤務の環境と育児の環境が調和し、生活を送るうえで著しい困難が生じないだろうと思えたことは防衛医科大学校病院への入職の決め手でもありました。さらに、診療科が多岐にわたるため多様な経験ができるだろうことも魅力がありました。今は ICU で勤務していますが、共に働く皆さんが食欲に学ぶ姿勢に圧倒されています。

一看護師になってよかった、そう思うことはありますか、またこれからの目標を聞かせてください

看護師として働くことができていたから、子どもの成長やライフイベントに伴う変化にも、看護の学びによって不安が少なくて済みました。

“看護”って人を救いますが、私は自分が日々看護に助けられています。もともと家事も得意な方ではありませんでしたが、シーツ交換などの環境整備も苦ではなくなりました。“看護”には健やかに生きる知恵が詰まっているように思います。

これまでずっと周囲の助言や後押しをいただきながら「いまここで自分にできること」を積み上げてきました。今の職場では、先輩からの勧めで通信の大学に通い学士をとりました。このような経験を経たうえでこれから先を考えると、ICU に勤務する者として認定資格を目指す、あるいは教育の道、または、看護のキャリアを生かした別の道、などなど思い浮かびはしますが現時点では模索中であり、今はまだ決めていないというのが本音です。

働き続ける中で進むべき道が見えてくるのではないかと考えています。

一看護の道を目指している皆さんにメッセージをお願いします

個人的な経験からになりますが、挑戦することがいつでも可能なわけではありません。何か一步を踏み出す時、お金のこと、時間のこと、妨げになるような理由はいくらでも挙がると思います。

でも、今この時を逃したら次のチャンスが回ってくるのか、その時の環境が今よりもいいのか、それは誰にも分かりません。

私自身、看護師資格取得までの日々の中で様々な制度を利用しました。学友たちもそれぞれの環境にありながら公的な制度、病院独自の制度などを利用して頑張っていました。

自分の状況と、目指す道の困難を照らし合わせて迷いが生じることはあると思いますが、何かに対して挑戦しようという気持ちが少しでもあるならば、ひるまず、躊躇わずチャレンジしていいと思います。

(聞き手:看護を考える委員会 委員長 柿澤由紀子)

管理職として部署を良くするには人材育成が大切です。人は財産と捉え、新人や異動者の育成だけでなく、看護師個々のキャリア開発を支援したいと考えています。

尾上さんがチャレンジすることを選んできた背景には、今の自分に満足せず食欲に学ぼうとする気持ちを持ち続けているからだと思います。だからこそ、支援したいと思うし、私自身も頑張る力をもらっています。そんな尾上さんの今後の活躍に期待しています。

防衛医科大学校病院

看護師長 中安文恵 様